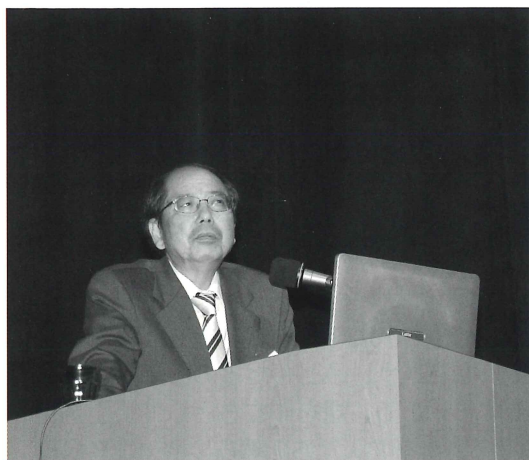


報告

ケータイから子どもたちを守ろう～憲法と市民のつどい



5月30日（土）午後、メイシアターで今年度の「憲法と市民のつどい」を開催しました。今回は携帯電話やパソコンの便利さの裏に潜む危険性を取り上げ、NPO法人「青少年メディア研究協会」理事長の下田博次さん^{しもだ ひろつぐ}から有害サイトから子どもたちを守る方法について分かりやすくお話していただきました。新型インフルエンザの影響で参加者が少なかったのが残念ですが、参加された皆さんからは、「大人や親がもっと怖さを知るべきです。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。

また、アトラクションの女性アカペラグループ「宝船」^{たからぶね}によるコンサートは、迫力あるボイスパーカッションと美しいハーモニーが好評で、癒されるひと時になりました。

【参加者の感想】

- ◎ 先生の講演を聴いて、高校生を持つ保護者として、初めてケータイの大変な仕組みを知り、驚きとともに感謝しています。ぜひ吹田市のPTAにも広めていってほしいです。
- ◎ ケータイの危険性を感じてはいましたが、先生のお話には本当に実感させられました。大人や親がもっと怖さを知るべきです。大人が甘すぎます。
- ◎ インターネットの裏面はかなり分かっているつもりだったが、知らない部分もあってよい勉強になりました。私の地区の人権委員会で、この勉強会を持ちたいと思います。



あなたも人権啓発推進委員になりませんか！

人権啓発を目的に、各地区でいろいろな行事が行われています。あなたも人権啓発推進委員になって、一緒に活動しませんか。

・・・下記の人権協事務局までお問い合わせください。・・・

ひと・あい・ふれあい

発行／吹田市人権啓発推進協議会

事務局：吹田市 自治人権部 人権平和室 内
〒564-8550 吹田市泉町1-3-40

電話 06-6384-1539

FAX 06-6368-7345

E-mail jin_kent@city.suita.osaka.jp



じんけんネット吹田

No. 27

平成21年(2009年)11月

— 2009 —

人権フェスティバル ～地球環境は～

変動する地球環境の中で



講師 気象予報士

まさ き あきら
正木 明 さん



「夢をあきらめないで」

エスペランサ

日時 12/6 (日) 13:30～16:00

場所 メイシアター 中ホール

入場無料 手話通訳あり

ちがいを認め合い、共に生きることのできる社会をめざし、毎年12月の人権週間に開催している「人権フェスティバル」^{まさと き あきら}。今年は、テレビでお馴染みの気象予報士の正木明さんをお招きします。

今、大きな問題になっている温暖化の影響により地球上で何が起きているのか。人権にもかかわる視点で、沈みゆく島国「ツバル」の現状から地球環境についてお話をさせていただきます。

また、コンサートは、難病を乗り越えてオカリナとフルートを奏でる奥田良子さん^{おくだ りょうこ}と、それをベースの調べで支える夫の勝彦さん^{かつ ひこ}ご夫妻のユニット「エスペランサ」のお二人に、病を乗り越えたからこそわかる、生きている喜びや幸せをしみじみと感じさせられる演奏とお話をさせていただきます。

皆さんのご参加をお待ちしています。

同時開催 ■じんけん作品・パネル展

12/4(金)～10日(木) 10時～17時

メイシアター 1階展示室

■人権週間に関する書籍の紹介

市立図書館各館、男女共同参画センター図書コーナー

自分を大切に 友だちを大切に！ ～児童会館・児童センター～



吹田市内に11館ある児童会館・児童センターでは、0歳から小学生までの幅広い年齢の子どもたちが、年齢を越えた交流を通じ、自由に遊んだり、行事に参加しながら、一人ひとりが本来持っている可能性を引き出し、発展させ、心身の健全な育成を図っています。自分のことを大切に思う自尊の気持ちと、一緒に遊ぶ友だちを大切にする思いやりの心をさまざまな取り組みを通じて、育んでいます。

みんなで考えよう 地球温暖化

地球温暖化のしくみ

大気は太陽からの光線を通させると同時に宇宙へ逃げようとする熱を捕らえて、地球を暖めています。それは温室のガラスの働きとよく似ており、大気のような働きを温室効果といいます。この効果をもたらすものの代表が二酸化炭素（=CO₂、ほかにメタン、フロンなど）で「温室効果ガス」と呼ばれています。

この「温室効果ガス」による熱の吸収により、地球上は、平均気温約14℃という生物の生存が可能な環境に保たれてきました。ところが、産業革命以降の人間社会は、大量の二酸化炭素等を大気中に排出するようになり、大気中の二酸化炭素濃度が上昇し続けています。その結果、地球上の熱を吸収する量が増え、気温が上がる温暖化現象が生じています。

地球温暖化の影響

海水の温度上昇による体積の増加や、氷河が溶けることにより海面が上昇し、日本でも海拔ゼロメートル地帯が拡大します。その結果、高潮や津波被害の増大が考えられます。



ツバル、フナフチ環礁の島の様子

ツバルでは海岸浸食の他に、タロピットという主食の芋畑に海水が入り込み、作物が育たなくなる等の被害が出始めており、自給自足の生活をしているツバル人は、島が沈むより前に食べ物が無くなって人が住めなくなってしまうことを心配している。

「全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイトより
(<http://www.jccca.org/>)」

また大気圏の温度構造の変化によりオゾン層が破壊され、紫外線が増大し、皮膚がんなど人体への影響や生態系の破壊などが危惧されています。

このような状況のなかで、日本政府は、国連で温室効果ガスを1990年比で2020年までに25%削減することを宣言しました。地球温暖化は、人類全体の問題であり、すべての国が取り組むべき課題です。今こそ、子どもたちに快適な環境を引き継いでいくために何ができるのかを、私たち一人ひとりが、自らの問題として捉えていくことが求められています。

家庭でできることから始めてみませんか

- ・テレビなど家電製品の主電源を切り、待機電力を減らす。
- ・使っていない部屋の照明はこまめに消す。
- ・お風呂の残り湯を洗濯や庭の水やりなどに使う。
- ・通勤や買い物の際にバス、鉄道や自転車を利用する。
- ・買い物袋を持ち歩き、レジ袋の利用を減らす。
- ・車の運転時は急発進、急加速、空ぶかしを避ける。

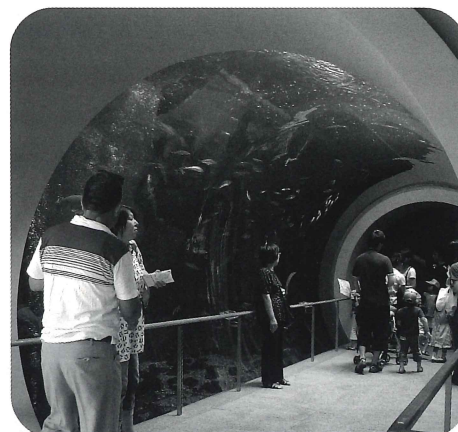
など



地区委員会の取り組み

*人権にも大きくかかわる環境問題。身近なところから関心を持って、行動につなげることが大切です。現地研修や地区での活動を報告していただきました。

瞳輝く体験を～関西の水瓶、琵琶湖を知ろう



今年の「夏休み親子見学会」は、関西の水瓶「琵琶湖」を学ぼうと、草津市の琵琶湖博物館へ行ってきました。昨今、子どもたちの日常生活は、ますます自然から遠ざかっています。そこで、湖を仲立ちとして、生き物や水の流れと巧みに折り合いをつけてきた昔の人たちの暮らしや、魚や水鳥たちの姿や動きに触れさせてやることで子どもたちの目を輝かせようと、勇んで出かけました。琵琶湖の水の起源を辿りながら、館内の展示、とりわけ、トンネル水槽は魚の群れ泳ぐ湖の中を歩く心地がするし、所々につくられた湖岸の水中が覗ける仕掛けは、何度見ても楽しく、自分たちの暮らしと水の関わりについても学ぶことができました。

（青山台地区委員会より）

日頃気付かない下水の行方を探ってみました

琵琶湖の水を使って生活している私たちですが、使った後の下水の処理はどうなっているのでしょうか。日頃はあまり考えない下水処理の仕組みを学ぼうと、大阪市内の12か所の下水処理場から送られてくる1日約600tもの汚泥（スラッジ）を集中的に処理している舞洲スラッジセンターを見学しました。汚泥とは、汚水を処理し殺菌し海に放出したあとに残った泥のようなものです。快適な市民生活を支える最も基本的な施設ですが、汚水を処理しているからこそ、写真のような素敵な外観にするなどの配慮しているとのこと。また、汚泥は、いろいろ工夫して、道路の舗装材などに使われますが、厄介なのは油の処理です。家庭では是非守りたいのは「食用油を絶対に流さないこと」。一人ひとりの心がけの大切さを学んだ一日でした。

（西山田地区委員会より）



まずはみんなで街をきれいにすることから



連合子ども会と一緒に地域をパトロールしながら、クリーン作戦と称して毎年ゴミ拾いを行っています。何事も大人が事前にすべてを用意してから行うことが多い昨今ですが、この行事では最初から子どもと共に行動をする中で、ゴミのポイ捨ての多いことなどを少しでも分かってもらえたらいいなと考えています。今後も、親子で地域の様々な人権活動を体験し、幼児期から良い習慣を身につけていってほしいと願っています。

（高野台地区委員会より）